

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
次世代研究者育成プログラム

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」概要

日本は、さまざまな国や組織が強く相互作用しているグローバル社会の中で、相対的に存在感を減少させつつあります。また、日本の少子高齢化の進行は早く、とくに、地方においては過疎化が顕著になっており、国力の低下に大きな影響を与えています。科学技術人材は、単に科学技術の専門性だけを備えているだけでは、高度に複雑化した現代の課題の解決を図るためには力不足です。そこで、本コンソーシアム「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、広島大学、山口大学、徳島大学の3大学が共同実施機関となり、中国四国地域の他の国立大学等と協力して、「理系に強い人社系、人社系に強い理系」の博士人材を育成することにより、特に地方再生に力となる人材の輩出を目指します。

本コンソーシアムでは、下記に示す(1) テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム及び(2) イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムの2つの機能を支える広域プラットフォームを構築し、博士後期課程学生、ポストドクター、テニユアトラック研究者に対して、各キャリア段階に応じた支援をシームレスに行います。

(1) テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム
コンソーシアムを構成する機関を中心に、有望な若手研究者を国内外から共同で公募・選考し、テニユアトラック研究者として採用します。女性枠も設けます。採用後は、PIとして自立して研究活動が行える環境を用意した上で、多様な雇用・流動形態(ラボローテーション、クロスアポイントメント含む)の導入により、他機関の研究者とのネットワーク構築、武者修行の場を提供し、最終的な受入先とのマッチングを図ります。

(2) イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

本プログラムでは、コンソーシアム構成機関に所属する若手研究者(博士後期課程学生を含む)が地域や国際社会を変革する人材(イノベーター)として自立するために必要な実践的な養成環境を整備します。企業、自治体等との連携を通じて、実際の企業の課題解決や社会の課題解決に貢献する機会を提供し、共同研究(クロスアポイントメントの可能性含む)やPBLに基づくインターンシップ派遣の形で具現化します。また、このような社会の多様な場での活躍を可能とするトランスファラブルスキル(移転可能なスキル)の養成を行うことで、若手研究者の実践的な養成と効果的な活用を図ります。